

## 第2次病院改革プラン(平成28年度～令和2年度)の実績概要

# 資料3

(自己評価の基準 ※数値目標のある取組項目について以下に基づき総括評価)  
 「順調」: 目標が達成できている 「概ね順調」: 目標の過半数以上が達成できている  
 「やや遅れている」: ほとんどの目標が達成できていない 「遅れている」: 目標の達成ができていない、未実施

分類	取組事項	実績概要 ※【 】は自己評価による達成度
I 病院機能の確保について	①高度医療の急性期病院	<p>【やや遅れている】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在も、急性期一般入院料1(従前の入院基本料7対1)の施設基準を維持し、高度な医療提供体制の継続に努めている。また、施設基準を満たすための病棟看護師数及び医療看護必要度を確保している。</li> <li>・DPC対象病院に対するインセンティブである機能評価係数の向上が図れた。</li> </ul> <p>(5年間効果額)26,000千円の費用増➡(実績)36,326千円の費用減</p>
	②二次救急医療の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外救急は伊賀市2病院との輪番制による体制を継続している。令和元年8月からは岡波総合病院の水曜日時間外救急体制が整ったことから輪番日の一部について見直しを行った。</li> </ul>
	③地域一次医療機関との連携	<p>【やや遅れている】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療支援病院として地域開業医との連携体制を継続している。紹介率・逆紹介率も基準を満たし、地域包括ケアシステムの構築にも寄与している。</li> <li>・入退院支援を拡充するため地域医療支援室に専門部門を設置し、スムーズな入退院が行える体制を整備した。</li> </ul> <p>(5年間効果額)4,145千円の増収➡(実績)3,382千円の増収                      ※地域医療支援病院の体制維持に係る収入は除く</p>
	④地域の特性を踏まえた病院	<p>【やや遅れている】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産科の開設を目指したが最終年度までの実現には至らなかった。</li> <li>・小児科では、24時間365日で運用している「小児救急医療センター」及び「小児発達支援外来」を継続している。</li> <li>・専門外来は現在、9診療科を設置している。</li> <li>・回復期機能の検討では、伊賀地域の同機能の充実に向け、令和2年4月に地域包括ケア病棟(41床)を整備した。</li> </ul> <p>(5年間効果額)16,800千円の増収➡(実績)28,405千円の減収                      ※地域包括ケア病棟開設に伴う損益は含んでいない</p>
II 医療従事者の確保について	①人材の確保	<p>【概ね順調】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤医師数は、平成27年度末42人の維持を目標としたが、主に内科医、研修医が減少し令和2年度末実績は34人となった。</li> <li>・医師確保及び負担軽減策の拡充により時間外勤務の減少を目指した。最終年度はコロナ禍による総患者数の減少もあったことから、目標時間に収まっている。</li> <li>・医師事務作業補助者は目標を超える増員を図れた。(施設基準更新により同時に財源確保)</li> <li>・事務局機能の強化を図るため事務職員のプロパー化を進めている。計画初年度は0人であったが、令和2年度末時点で6人とした。</li> </ul> <p>(5年間効果額)12,226千円の費用減➡(実績)30,059千円の費用増</p>
	②人材の育成	<p>【遅れている】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終年度の初期研修医数は2名であった。計画期間中には、初期研修医から当院の後期研修医として在籍したケースもあった。</li> <li>・目標値に達しなかったが専門性を備えた認定看護師を養成し、最終年度には7人とした。特色ある看護体制の整備に努めている。</li> <li>・人事評価制度は、医師以外の医療従事者に導入した。</li> </ul> <p>(5年間効果額)17,929千円の費用減➡(実績)94,047千円の費用減</p>

分類	取組事項	実績概要 ※【 】は自己評価による達成度			
Ⅲ 経営の効率化について	①収入増加	<p>【遅れている】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収入増に直結する病床利用率は、一時的に向上したが、平成30年度以降下降した。</li> <li>CT、MRIの検査件数は、患者数の減少により平成30年度以降下降した。</li> <li>外科・眼科系の手術件数は、令和元年以降下降した。</li> <li>収入につながる施設基準は積極的に取得した。医学管理料・指導料の算定件数は医療の質及び職員の意識向上により上昇した。</li> </ul> <p>(5年間効果額)628,500千円の増収➡(実績)296,823千円の減収</p>			
	②支出削減	<p>【やや遅れている】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度から特殊勤務手当の一部に病院収益への貢献度を評価するインセンティブ方式を導入したが、想定した効果は得られなかった。また、収益と給与費の増減バランスが不均衡で、収益減少による給与費対医業収益比率への影響は限定的であった。</li> <li>材料費ではベンチマークシステムのデータを活用した価格交渉や、後発医薬品の使用割合を高めたことから材料費対医業収益比率は最終年度の目標数値を達成した。</li> <li>時間外勤務・休日勤務時間数の削減を目指したが目標達成には至らなかった。</li> </ul> <p>(5年間効果額)19,038千円の収支改善➡(実績)16,425千円の収支改善</p>			
	③施設・設備の維持・更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度に医療機器等検討委員会を設置し、医療機器の新規・更新購入の在り方や購入及び更新計画について検討する体制を整備した。</li> </ul>			
	④附属施設の取組	<table border="1" data-bbox="507 1025 678 1238"> <tr> <td data-bbox="507 1025 678 1137">(i)介護老人保健施設ゆりの里</td> <td data-bbox="678 1025 1455 1137"> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年6月を以て閉所し、施設建物については社会福祉法人に無償貸付することになり、令和4年4月より民間の養護老人ホームとして運用が開始される。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="507 1137 678 1238">(ii)看護専門学校</td> <td data-bbox="678 1137 1455 1238"> <ul style="list-style-type: none"> <li>定員枠の拡大については議論が進んでいない。</li> <li>平成28年度に入学金・授業料の見直しを実施した。</li> </ul> </td> </tr> </table>	(i)介護老人保健施設ゆりの里	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年6月を以て閉所し、施設建物については社会福祉法人に無償貸付することになり、令和4年4月より民間の養護老人ホームとして運用が開始される。</li> </ul>	(ii)看護専門学校
(i)介護老人保健施設ゆりの里	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年6月を以て閉所し、施設建物については社会福祉法人に無償貸付することになり、令和4年4月より民間の養護老人ホームとして運用が開始される。</li> </ul>				
(ii)看護専門学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>定員枠の拡大については議論が進んでいない。</li> <li>平成28年度に入学金・授業料の見直しを実施した。</li> </ul>				
Ⅳ 再編・ネットワーク化について	○再編・ネットワーク化	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次医療圏における医療機関の再編・ネットワーク化、さらには経営統合といった議論・検討については、計画期間中の実現に至らなかった。</li> </ul>			
Ⅴ 経営形態の見直しについて	○経営形態の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年1月に市議会から経営形態の検討についてご意見をいただき、当プランの計画期間中に検討することとしたが、事務局レベルでの情報収集に留まった。</li> </ul>			